

自己点検・評価での課題への対応

部局等 キャリアセンター

自己点検・評価での課題等 (○年○月○日実施)	対応策・対応状況・部局長の意見等	対応策に対する進捗状況
<p>基準番号：2-1</p> <p>専任の配置人員が少なく、任期付きの特命職員であるため、発展的なキャリア教育と柔軟で手厚い就職支援を継続して提供するためには、長期を見据えた人員の配置が望まれる。</p>	<p>キャリア教育を継続的に実施・展開・向上するためには、キャリアセンター専任教員として任期付きではない教員の配置が望まれる。併せて、高い就職率を維持するためには、キャリアカウンセラー（特命職員）の継続的配置が望まれる。引き続き、特命職員による実績を含め、機会あるごとに配置の必要性について働きかけていく。</p>	<p>キャリアセンター専任教員は、諸手続を行った上で人事委員会において令和5年3月から無期限教員が決定した。また、役員等への就職状況報告等において実就職率1位を16年連続維持できている要因として、キャリアカウンセラーによる柔軟で手厚い就職支援であり、その結果、低い離職率に繋がっているため、まずは無期雇用へ関係部局等と調整をすることとしている。</p>
<p>基準番号：3-1</p> <p>センターではキャリア支援課と協働で、設置目的や中期計画等の達成に資する多岐にわたる活動を継続しているが、今後これら活動の質を更に向上するには必ずしもマンパワーが十分でないことが危惧される。</p>	<p>キャリア教育の充実を図ることのみならず、第4期中期計画の達成のために、現在配置されているキャリアセンターに特命教員1名以外に、キャリア教育に携わる教員もしくは教育を補助する職員1名の増員が望まれる。引き続き、機会あるごとに増員の必要性について働きかけていく。</p>	<p>発展的なキャリア教育を維持・継続し第4期中期計画の達成のためには、現在配置されているキャリアセンターに特命教員1名以外に、キャリア教育に携わる教員もしくは教育を補助する職員1名の増員が望まれることから、関係部局等と調整をすることとしている。</p>
<p>基準番号：3-2</p> <p>学生の職業観の涵養が図られているかを検証するために、「インターンシップ」科目受講生以外のインターンシップ参加状況の把握、分析を行うことについて検討が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアセンターが利用しているキャリアサポートシステムで学生のインターンシップ参加状況を調査しているが、回答数はまだまだ少ない。回答を促し、参加状況の把握に繋げることとしている。 ・参加学生の要望なども聴取し、「インターンシップ」授業受講者以外のインターンシップ参加学生の単位認定について検討し、キャリア教育プラットフォームプログラムの充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ参加状況の把握のため、キャリアサポートシステムで調査したところ、令和3年度と令和4年度卒業・修了学生では約1.4倍の参加増がみられた。 ・令和5年度から大学生等のインターンシップが変わり「文部科学省・厚生労働省・経済産業省の合意（3省合意）」、4つの類型化で就労体験を含む5日以上を取組がインターンシップと称され、福井インターンシッププログラムが就職の色が強くなったことを受け、これ以外のインターンシップ参加学生の単位認定について検討している。

<p>基準番号：3-3</p> <p>留学生に特化した支援がほとんどないため、今後の強化が望まれる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年7月より、Googleの共有ドライブに企業説明会やインターンシップ等の就活情報を掲載することとして運用を開始した。その中に留学生対象情報に特化した共有ドライブサイトも作成しており、留学生及び国際課、国際センターに周知した。今後も留学生に適宜周知していくなど、留学生に特化した支援が強化されている。 企業との面談において、留学生の採用について聞き取りを行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> Google共有ドライブに企業説明会やインターンシップ等の就活情報を掲載するとともに、学生が日頃活用しているキャリアサポートシステムからもアクセスできることとした。また、キャリアサポートシステムは日本語のみの対応となっているが、外国語にも対応できるか検討を進めている。 企業との面談では、留学生の採用について聞き取りを行っている。あわせて、留学生キャリア形成・地域定着促進プログラム「Link KAGAYAKI」コンソーシアム留学生と企業を“つなぐ”マッチング事例報告会に参加し、留学生採用企業の情報収集に努めている。
<p>基準番号：4-2</p> <p>センターが実施するキャリア教育科目はすべて共通教育科目として展開されているが、選択科目であることもあり、受講者が限定されている。今後、受講者数を増加させる方策等の検討が必要である。</p>	<p>特命教員1名の状況で、どこまで学生の受け入れが可能か検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「キャリアデザインA」は現在80名定員だが、100名まで増やすことができないか検討 「インターンシップF」の定員は80名だが、受講生が40名程度と少ないため、受講を呼びかける。 令和4年度に「キャリアデザインC」を新規開講した。定員20名で8名の受講があった。来年度以降受講を呼びかけていく。 受講を呼びかけるために、入学から卒業までの一貫したキャリア教育を説明するパンフレット等の作成を検討する。 これまで、「同窓経営者の会」の地元企業にご協力いただいているが、さらにご協力いただけるよう要望する。 上記2-1, 3-1にも記載したように、キャリア教育科目を拡大するためのマンパワーの獲得を様々な機会に働きかける。 	<p>特命教員1名の状況で、どこまで学生の受け入れが可能か検討を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「キャリアデザインA」講義(90分間)では、7~8人のグループワークの構成でグループワーク後の発表を含めると10組程度での教育効果が高いことが確認できた。 「インターンシップF」は、受講希望は多いものの福井県でのインターンシップのみのプログラムのため受講登録が減る。また、福井インターンシッププログラムが就職の色が強くなったため、次年度以降は他のインターンシッププログラムを含めるか検討する事としている。 「キャリアデザインC」開講2年目の履修申込みは増加したが8講義1単位であることから4名の受講となった。次年度以降は、15講義2単位とする方向で検討している。 キャリア教育を説明する「キャリア教育プラットフォームプログラム受講案内パンフレット」を作成し配布した。 同窓経営者キャリア支援委員会で「キャリアデザインA」への協力依頼を行い、企業の方々に参加して頂いた。 現在配置されているキャリアセンターに特命教員1名以外に、キャリア教育に携わる教員もしくは教育を補助する職員1名の増員が望まれることから、関係部局等と調整をすることとしている。(再掲)

<p>基準番号：5-1</p> <p>コロナ禍でオンラインを利用した面接や説明会が増え、学生の需要が高いテレワークブースは期限付きのデモ導入であるため、期限後も設置が継続されるよう配慮が必要である。</p>	<p>令和4年11月にはデモ期限が切れるが、学長裁量経費を追加配分いただけることになり買取を行った。これにより、継続して設置されることが確定した。</p>	<p>設置されたテレワークブースは、Web企業等の採用に関する説明会、Web適性検査等で学生が使用している。</p>
<p>基準番号：6-1</p> <p>学長裁量経費としての財務支援がなされていること、学内合同企業説明会を積極的に実施してきたことによる寄附金の確保により、キャリア教育を含め学生への十分な支援活動が行われている。しかしながら、これら活動の継続・質向上にはマンパワーが不可欠であり、センターの特命教職員に対する人件費が恒常的に措置されることが必要ある。</p>	<p>特命教員の人件費は、令和3年度から令和7年度までの5年間の事業として「福井大学における「学びの母港」に資するキャリア教育プラットフォームプログラムについて」として配分されることとなっているが（令和4年度はミッション実現戦略経費として配分）、令和8年度以降の予算は未定である。年々「キャリア教育」の重要性が増している中で、事業期間以降の継続が必須であることから、人件費を含めた継続的な予算の配分が望まれる。引き続き、予算措置の必要性について様々な機会に働きかけていく。</p>	<p>特命教員の人件費は、令和3年度から令和7年度までの5年間の事業として「福井大学における「学びの母港」に資するキャリア教育プラットフォームプログラムについて」として配分されている。令和5年度については、様々な就職支援活動によって令和4年度も高い就職率が維持され本学が実就職率16年連続一位となったことが高く評価され、学長学長裁量経費（役員評価配分）が措置された。しかしながら、年々「キャリア教育」の重要性が増している中で継続的な予算確保が必要なことから、引き続き、予算措置の必要性について様々な機会に働きかけていく。</p>
<p>基準番号：6-2</p> <p>コロナの影響や就職活動環境の変化により、学内合同企業説明会などの大学主催企画に学生の参加が減少していることから、実施規模を縮小せざるを得なくなっており、合同企業説明会企業参加費からの寄附金が減少することを考慮した事業計画が求められる。</p>	<p>寄附金の減少を見越し、事業内容の見直しが必要となるが、「キャリア教育」・「就職支援」活動を現在同様継続していくためには、教員の配置、キャリアカウンセラー3名の配置は必須であることから、引き続き事業内容の見直し、予算の確保について検討していく。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後に学内合同企業説明会を開催したところ、募集する企業等からの参加意向は高まっており160社の参加があった。一方で、物価及び人件費高騰により企業ブース設置等の費用負担が多くなった。そこで、他の収益が見込める新たな検討を始めた。</p>

<p>基準番号：6-2</p> <p>センター独自の予算は配分されていないが、予算執行等の透明性を向上するため、適切な収支に係る計画が策定され、適切に履行されていることを運営委員会に報告し、意見を求めることを検討する。</p>	<p>キャリア支援課に配分される予算について、執行計画の策定、執行報告をキャリアセンター運営委員会で審議することによって透明性の向上を図るとともに、今後の事業計画への意見を求めて行く。</p>	<p>キャリア支援課予算を基に、限りある予算を効果的なキャリア教育と就職支援に充てられるよう広く意見求めるため、執行計画の策定、執行報告をキャリアセンター運営委員会で諮ることで進めている。</p>
---	--	--

※記入欄は適宜追加してください。